

# 「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「迷ったときは得にならないほうを選ぶ」ってどういうこと？～

今回は・・・親交のある、京都の中学校の通心（信）より・・・

《得になることと、得にならないこと。迷ったときは、得にならないほうを選ぶ》

（作家・俳優、中谷彰宏）

「理由はなに？」と思ったあなた。ちゃんと説明しますから、そう怒らずに…。

そもそもこの言葉は、無条件で、いつも「**得にならないほうを選ぶ**」と言っているわけではありません。

前提条件である、「迷ったときは」という言葉が、実は重要なのです。

たとえば、「10万円儲かる仕事」と「1万円儲かる仕事」があって、あなたが、「どちらかを選び」と言われたとしましょう。

もし、あなたに迷いがなければ、素直に「10万円儲かる仕事」のほうを選びたいのです。

ところが、ここで、あなたに、もし「**迷いがある**」としたら…

その場合は…

「儲からないほう（＝得にならないほう）」である「1万円の仕事」を選びなさい！」

というのが、この言葉の意図です。

なぜか。それは、9万円もの差があるにもかかわらず、あなたが「迷っている」時点で、すでにあなたは、「**得しないほうの仕事**」に、「**お金以外の魅力**」を感じているという証拠だからです。

「得はしない」けれど「魅力を感じる仕事」は…

**あなたが楽しみながら、やりがいを持って、力を発揮できる仕事である確率が高い**のですね。

「迷った」ときは、「得しないほう」を選ぶ。

そのほうが、「得だけど楽しくなくて、やりがいも感じないほう」を続けるよりハッピーだし、成功する確率も高い。

『マジどん「マジで、どん底！」から抜け出す一流の人のすごい考え方』

西沢 泰生 著／内外出版社

なるほど・・・ですね。その他にも「迷った」理由として…

「**その10万円の儲け方ってどうなの？誰かに損をさせること、誰かを困らせることにならないか？**」と疑問を持ったから・・・あるいは・・・「**短期的には儲かるけど長期的にはどうなの？**」と疑問をもったから「迷う」のかもしれないね。

お金でも、時間でも、働くことでも、とにかく損はしたくない、ムダなことは一切したくない、と思っている人は多いはずだ。

しかし、「迷ったときには・・・得にならないほうを選ぶ」ことで、見える景色が変わるのですね。

どんなときでも、**面白がって楽しんでいる人、笑っている人には限りない魅力がありますから・・・**

損か得かではなく・・・面白いか、面白くないか。・・・楽しいか、楽しくないか。・・・

笑えるか、笑えないか。・・・好きか、好きじゃないか。・・・

うれしいか、うれしくないか。・・・ネタになるか、ネタにならないか。・・・

粋か、粋でないか。・・・

こんな視点も持ってみてはどうでしょう。

